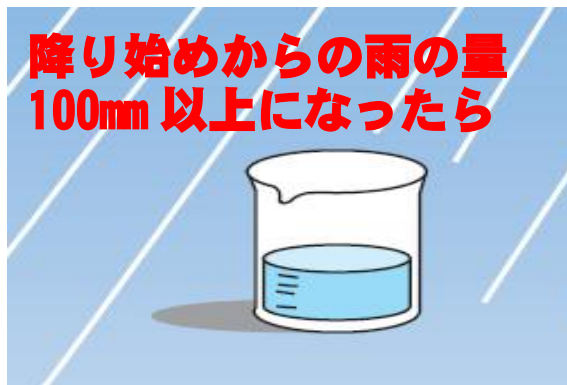


どしゃさいがい み まも
土砂災害から身を守る （教師職員用資料）

どしゃさいがい お とき
1. 土砂災害が起こりそうな時には



雨の量に注意する。1 時間に20ミリ以上の強い雨が降ったり、降り始めから100ミリ以上になったら災害への注意が必要。

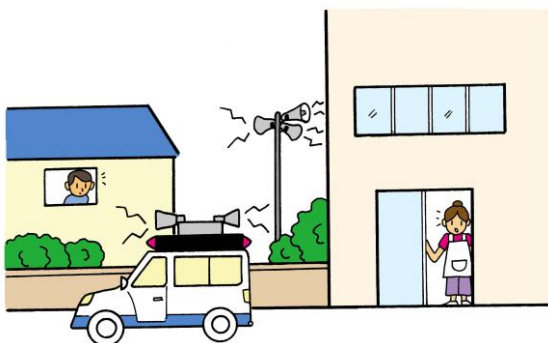


土砂災害の前ぶれ(前兆現象)に気をつける。気づいたら、先生や家族に伝える。また早く避難する。



テレビやラジオの天気予報や災害に関する放送などに気をつける(雨量などの情報を収集する)インターネットからも気象情報や土砂災害の情報を入手できる。

とき
2. あぶないと思った時には



役所の広報車や防災無線放送などに注意して、避難情報が出ていないかを確認する。



暗くなると危ないので、明るいうちに安全場所(避難所や頑丈な建物など)に避難する。

◆土砂災害から身を守るために

ポイント1： 危険な場所を知る

自分が住んでいる町には、土砂災害に関して危険な区域や場所はあるか、それはどこか、普段から確認しておくことが大切です。危険箇所は、ハザードマップという地図や危険箇所を表す看板等で知ることができます。

ポイント2： 雨に注意する

土砂災害の多くは、大雨が原因で起こります。1時間に20ミリ以上の強い雨が降ったり、降り始めてからの雨量が100ミリを超えると、土砂災害が起こりやすくなるといわれています。また、がけくずれなどは雨がやんだ後にも起こることがあります。大雨のあとは何日か注意が必要です。

<参考>気象庁HP 「雨の強さと降り方」

http://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/yougo_hp/amehyo.html

(雨量の目安)

5～10 ミリ／時

家の中にいても雨の音がよく聞こえる。地面にところどころ水たまりができる。

10～20 ミリ／時

雨の音で、話し声がよく聞こえなくなる。地面全体に水たまりができる。

20～30 ミリ／時

どしゃぶり。小川やどぶ川があふれたり、がけくずれが起こったりする危険がある。

30 ミリ／時 以上

洪水や土砂災害の危険が大きい地域では、早めに避難を始める必要がある。

ポイント3： 土砂災害の前ぶれに注意する

土砂災害が起きる前には、前ぶれとなる現象が見られることがあります。「いつもと違う」「なにか変だ」という現象を見つけたら、すぐに役場や近所の人に知らせ、安全な場所に避難してください。大雨や長雨がやんだあとにも注意が必要です。

※土砂災害の前兆現象については、小学校中学年のワークシートを参照

ポイント4： 避難場所や避難の仕方を知っておく

土砂災害発生の危険が迫っているとき、身を守るために一番大切なことは、「早めに避難する」ことです。しかし、避難場所や避難時に注意することがわからないと、素早く安全に避難することはできません。普段から避難のしかたや避難場所について、家族で話し合っておくことが重要です。

【避難所の場所を知る】

- ・ハザードマップで調べる（ハザードマップの入手法は【資料304】を参照）
- ・新潟県の避難所情報で検索する（【資料303】を参照）

【避難する時の注意】

- ・1人では避難しない。特に子どもは必ず大人と一緒に避難する。
- ・流れる水が、ひざまで来ると歩けなくなるので近づかない。
- ・濁った水は深さがわからないので注意。杖（つえ）や傘（かさ）をつきながら歩くと安全。

- ・雨がやんでも、突然水かさが増えることがある。その場合はしばらく待つ。
- ・どうしても避難場所に行くことができないときは、近くの頑丈な建物の2階以上に避難する。それすら難しい場合は、家の中の安全な場所（崖などから一番遠い部屋など）に避難する。
- ・土石流はスピードが速い（時速40～50キロ）ので、流れに対して直角方向（横向き）に逃げる。

ポイント5: 気象情報や避難に関する言葉を知っておく

気象情報(天気予報)や災害情報でよく使われる言葉の意味を覚えておきましょう。

気象情報	大雨警報	大雨による重大な災害が発生するおそれがあると予測したときに発表します。対象となる重大な災害として、重大な浸水災害や重大な土砂災害などがあげられます。雨がやんでも、重大な土砂災害などのおそれが残っている場合は、発表を継続します。 ※大雨警報には、大雨警報(土砂災害)、大雨警報(浸水害)、大雨警報(土砂災害、浸水害)があります。 <u><参考>気象庁ホームページ</u> http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/yougo_hp/keihou.html
	洪水警報	大雨、長雨、融雪などにより河川が増水し、重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。対象となる重大な災害として、河川が増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害があげられます。なお、河川を特定する場合は、指定河川洪水警報を発表します。
	土砂災害警戒情報	大雨による土砂災害発生の危険度が高まった時、市町村長が避難勧告等を発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。
避難情報	避難準備情報	住民に対して避難準備を呼び掛けるとともに、高齢者や障がい者などの災害時要援護者に対して、早めの段階で避難行動を開始することを求めるものです。(市町村からの呼びかけ)
	避難勧告	災害によって被害が予想される地域の住民に対して、避難を勧めるものです。(市町村からのお願い)
	避難指示	住民に対し、避難勧告よりも強く避難を求めるものです。避難勧告よりも急を要する場合や人に被害が出る危険性が非常に高まった場合に発表します。ただちに避難行動を開始してください。(市町村からの命令)
危険箇所	土砂災害危険箇所	「土砂災害による被害の恐れのある箇所」を公表したもの。土砂災害危険箇所は県内に8,791箇所あり、「土石流危険渓流」「急傾斜地崩壊危険箇所」「地すべり危険箇所」の3つに分類されています。
	土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)	土砂災害が発生した場合、住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域です。 <u><参考>新潟県土木部砂防課ホームページ</u> http://www.pref.niigata.lg.jp/sabo/1195402288913.html
	土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)	土砂災害が発生した場合、建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域です。 <u><参考>新潟県土木部砂防課ホームページ</u> http://www.pref.niigata.lg.jp/sabo/1195402289668.html
	ハザードマップ	災害が発生した場合に備えて、住民の方々が素早く安全な場所に避難できることを目的に、被害が想定される区域と被害の程度、避難場所などの情報を地図上に明示したものです。

※特別警報については、【土_資料 311】特別警報リーフレット及び気象庁ホームページにてご確認ください。

(平成26年2月作成)